

令和3年度 教育委員会 第8回定例会 議案

1 日 時 令和3年9月1日(水) 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 案

<非>第12号議案 教職員の懲戒処分 … 非

<非>第13号議案 教職員の懲戒処分 … 非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

白
紙

第 8 回定例会 報告事項

| 番号 | 項 目 | Page |
|-------------|------------------------|------|
| 報 告 事項 1 | 令和 3 年度全国学力・学習状況調査結果報告 | P1 |

白
紙

令和 3 年度全国学力・学習状況調査結果報告

(義務教育課)

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日・実施学校数・実施人数 (政令市、特別支援学校を含む)

実施日：令和 3 年 5 月 27 日 (木)

実施学校数・人数：小学校 495校 児童数 (6 年) 29,967人
中学校 256校 生徒数 (3 年) 27,466人

3 令和 3 年度調査について

本体調査後に、経年変化分析調査が抽出形式で実施された。

4 公表日程

8 月 30 日 (月) 報道への投込

8 月 31 日 (火) ラジオ・テレビ・インターネット ※午後 5 時解禁

9 月 1 日 (水) 新聞 (朝刊)

5 調査結果の概要

(1) 学力に関する調査

ア 小学校 (教科ごとの平均正答率)

| 区 分 | 令和 3 年度 | | 区 分 | 令和元年度 | |
|-----|---------|------|-----|-------|------|
| | 静岡県 | 全 国 | | 静岡県 | 全 国 |
| 国 語 | 64.5 | 64.7 | 国 語 | 65.2 | 63.8 |
| 算 数 | 69.6 | 70.2 | 算 数 | 66.1 | 66.6 |

イ 中学校 (教科ごとの平均正答率)

| 区 分 | 令和 3 年度 | | 区 分 | 令和元年度 | |
|-----|---------|------|-----|-------|------|
| | 静岡県 | 全 国 | | 静岡県 | 全 国 |
| 国 語 | 65.6 | 64.6 | 国 語 | 74.8 | 72.8 |
| 数 学 | 59.4 | 57.2 | 数 学 | 62.1 | 59.8 |
| | | | 英 語 | 58.2 | 56.0 |

(2) 学習状況に関する調査

ア 児童生徒質問紙調査の主な結果

| 質問項目 | 小学校 | | 中学校 | |
|--|------|------|------|-------|
| | 静岡県 | 全国比 | 静岡県 | 全国比 |
| 自分には、よいところがあると思いますか | 79.3 | +2.4 | 78.9 | +2.7 |
| 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む) | 74.6 | +0.6 | 62.0 | -1.5 |
| 将来の夢や目標を持っていますか | 81.3 | +1.0 | 70.0 | +1.4 |
| 今住んでいる地域の行事に参加していますか | 66.7 | +8.6 | 64.4 | +20.7 |
| 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、 自分の考えを深めたり、広げたりすることが できていると思いますか | 78.2 | -0.6 | 79.8 | +2.0 |
| 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後 まで聞くことができますか | 95.9 | +0.4 | 96.6 | +0.1 |
| あなたは学校で、コンピュータなどのICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べ たりするために、どの程度使用していますか (週1回以上の割合) | 38.1 | -0.9 | 40.6 | +5.8 |
| 学習の中でコンピュータなどのICT機器を 使うのは勉強の役に立つと思いますか | 95.1 | +0.6 | 93.9 | +0.7 |
| 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校 が休校していた期間中、勉強について不安を 感じましたか | 58.7 | +3.5 | 65.8 | +3.0 |
| 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校 が休校していた期間中、計画的に学習を続け ることができましたか | 64.1 | -0.5 | 37.6 | 0.0 |
| 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校 が休校していた期間中、規則正しい生活を送 っていましたか | 64.3 | +1.2 | 49.0 | +0.6 |

イ 学校質問紙調査の主な結果

※質問項目の[]内は、中学校への質問

| 質問項目 | 小学校 | | 中学校 | |
|--|------|------|------|------|
| | 静岡県 | 全国比 | 静岡県 | 全国比 |
| 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか | 98.6 | +5.0 | 97.3 | +4.6 |
| 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか | 90.9 | +5.2 | 91.4 | +4.2 |
| 児童[生徒]に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていますか | 79.4 | -5.9 | 98.1 | +0.2 |
| 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか | 72.6 | -0.7 | 60.2 | -3.1 |
| 保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか | 95.1 | +0.4 | 92.6 | +2.8 |
| 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童[生徒]一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか | 99.0 | +0.3 | 99.6 | +1.0 |
| 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、児童[生徒]の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか | 96.2 | +0.4 | 95.3 | -0.5 |
| 第6学年の児童[第3学年の生徒]に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラスあたりどの程度行いましたか（週1回以上の割合） | 84.4 | -2.2 | 87.9 | +0.1 |
| コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていますか | 93.3 | +2.9 | 91.8 | +3.2 |
| コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか | 38.2 | -1.2 | 39.1 | -0.4 |

6 調査結果の速報分析

- 学力に関する調査では、小学校は国語及び算数、中学校は国語及び数学の調査が行われました。小学校国語は全国の平均正答率を0.2ポイント下回りました。また小学校算数は、0.6ポイント下回りました。中学校は、国語、数学ともに、全国の平均正答率を上回りました。（国語は1.0ポイント、数学は2.2ポイント）中学校は調査開始以来、常に全国の平均正答率を上回る良好な結果となっています。今後は、検証・分析を行い、更に改善策等について検討します。
- 学習状況に関する調査では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合が、本年度も高い結果となっています。また、「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」に対して肯定的に回答した学校の割合も高くなっています。このことから、家庭・地域とともに子供を育てる静岡県の教育の成果が見られます。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して肯定的に回答した児童生徒の割合が高いことから、各学校において子供たちが安心して学習に取り組んでいることがうかがえるとともに、『主体的・対話的で深い学び』実現のための授業改善が推進されていると捉えることができます。
- 文部科学省は、学校質問紙の臨時休業等の期間と各教科の平均正答率のクロス集計結果から、「臨時休業期間の長さ」と各教科の平均正答率との間には、全体で見ると相関関係は見られなかった」としており、本県結果からも同様の傾向が見られました。
- 義務教育9か年を見通した学校の地道な取組、保護者や地域の方々の子供たちに対する温かな支えが、「確かな学力の育成」に影響していると考えています。
- 全国学力・学習状況調査結果から本県の成果と課題を検証・分析し、今後も地道に本県の子供たちの「確かな学力の育成」に努めていきます。

※詳細な分析は「令和3年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」（P 6～P 16）を参照

7 今後の取組

- ・学力調査と学習状況調査のクロス集計等、学習状況を含めた今年度の調査結果をさらに分析・検証し、学力向上推進協議会等において今後の対応策を協議する。
- ・今年度の成果と課題、今後の対策等については、令和3年度第2回学力向上連絡協議会（12月10日13：30～）で市町の指導主事に伝達する。また、その際に各市町の分析結果等についても共有する。
- ・教育事務所、総合教育センターの指導主事が、全国学力・学習状況調査分析会において共有した学力向上に関する方向性をもとに、学校への支援を継続する。

教育長コメント

このたび、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から発表されました。新型コロナウイルス感染症の影響下で、学校の教育活動に様々な工夫をされる中、円滑に調査を進めてくださり、感謝いたします。

学力に関する調査においては、小学校国語の知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、小学校算数は「B図形」「C変化と関係」領域において、やや課題が見られましたが、全体的には安定しており、授業改善が推進されていることを感じることができます。中学校は、毎年非常に安定した結果を継続しています。各学校が小学校での学びを生かしながら、生徒の実態に応じた授業改善が行われているものと思われれます。

コロナ禍で学校生活において様々な制限がある中、日々向上心をもって成長している児童・生徒と、児童・生徒を支え、義務教育9か年を見通して地道に取り組んでおられる先生方、市町教育委員会の皆様の御尽力に敬意を表したいと思います。

さて、県教育委員会といたしましては、「全国学力・学習状況調査」における「学習状況調査」、つまり、児童・生徒質問紙と学校質問紙の結果も重要であると考えております。

本年度も、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合が高い結果となっています。「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」に対して肯定的に回答した学校の割合も高いことから、家庭・地域の学校教育への深い理解と温かな支えが「確かな学力の育成」に大きく影響していると考えています。また、「自分には、よいところがあると思いますか」に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合が高く、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」に対して肯定的に回答した学校の割合も高いことから、子供たちを褒めて育てるという本県の方針が、よい結果をもたらしていると考えております。

今後も、子供たちに対する保護者や地域の皆様の温かな支えのもと、静岡県のよさを十分に生かした教育活動を行い、一人一人の「生きる力」の育成に努めてまいりますので、よろしく申し上げます。

令和3年8月30日

静岡県教育長 木苗 直秀

「令和3年度全国学力・学習状況調査結果速報分析」

教科に関する調査の結果

※小学校の分類等は平成29年告示の学習指導要領による

小学校

| R3平均正答率(%) | | | |
|------------|------|------|------|
| | 静岡県 | 全国 | 差 |
| 国語 | 64.5 | 64.7 | -0.2 |
| 算数 | 69.6 | 70.2 | -0.6 |

【国語】

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 | R3平均正答率(%) | | | |
|-------------------|----------------------|---|-------------|------|------|------|
| | | | 静岡県 | 全国 | 差 | |
| 学習指導 要領の 内容 | 知識及び 技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 6 0 0 | 67.0 | 68.3 | -1.3 |
| | 思考力, 判断力, 表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 3 | 78.1 | 77.8 | 0.3 |
| | | B 書くこと | 2 | 60.7 | 60.7 | 0.0 |
| | | C 読むこと | 3 | 48.5 | 47.2 | 1.3 |
| | 評価の観点 | 知識・技能 | 6 | 67.0 | 68.3 | -1.3 |
| 思考・判断・表現 | | 8 | 62.7 | 62.1 | 0.6 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | 0 | | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 8 | 71.7 | 71.7 | 0.0 | |
| | 短答式 | 3 | 68.7 | 70.6 | -1.9 | |
| | 記述式 | 3 | 41.3 | 40.2 | 1.1 | |

【算数】

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 | R3平均正答率(%) | | |
|-----------|---------------|-----------|------------|------|------|
| | | | 静岡県 | 全国 | 差 |
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | 4 | 62.7 | 63.1 | -0.4 |
| | B 図形 | 3 | 56.4 | 57.9 | -1.5 |
| | C 測定 | 3 | 75.2 | 74.8 | 0.4 |
| | C 変化と関係 | 3 | 74.4 | 75.9 | -1.5 |
| | D データの活用 | 5 | 76.2 | 76.0 | 0.2 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 9 | 73.4 | 74.1 | -0.7 |
| | 思考・判断・表現 | 7 | 64.7 | 65.1 | -0.4 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 0 | | | |
| 問題形式 | 選択式 | 6 | 76.1 | 76.0 | 0.1 |
| | 短答式 | 6 | 74.7 | 75.8 | -1.1 |
| | 記述式 | 4 | 52.1 | 53.0 | -0.9 |

中学校

| R3平均正答率(%) | | | |
|------------|------|------|-----|
| | 静岡県 | 全国 | 差 |
| 国語 | 65.6 | 64.6 | 1.0 |
| 数学 | 59.4 | 57.2 | 2.2 |

【国語】

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 | R3平均正答率(%) | | |
|------------|----------------------|-----------|------------|------|------|
| | | | 静岡県 | 全国 | 差 |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 3 | 81.7 | 79.8 | 1.9 |
| | 書くこと | 3 | 58.3 | 57.1 | 1.2 |
| | 読むこと | 4 | 49.3 | 48.5 | 0.8 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 4 | 75.3 | 75.1 | 0.2 |
| 評価の観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 4 | 57.7 | 56 | 1.7 |
| | 話す・聞く能力 | 3 | 81.7 | 79.8 | 1.9 |
| | 書く能力 | 3 | 58.3 | 57.1 | 1.2 |
| | 読む能力 | 4 | 49.3 | 48.5 | 0.8 |
| 問題形式 | 言語についての知識・理解・技能 | 4 | 75.3 | 75.1 | 0.2 |
| | 選択式 | 6 | 65.1 | 63.9 | 1.2 |
| | 短答式 | 4 | 74.3 | 74.4 | -0.1 |
| | 記述式 | 4 | 57.7 | 56 | 1.7 |

【数学】

| 分類 | 区分 | 対象 問題数 | R3平均正答率(%) | | |
|-----------|-------------------|-----------|------------|------|-----|
| | | | 静岡県 | 全国 | 差 |
| 学習指導要領の領域 | 数と式 | 5 | 67.9 | 64.9 | 3.0 |
| | 図形 | 4 | 54.9 | 51.4 | 3.5 |
| | 関数 | 3 | 57.6 | 56.4 | 1.2 |
| | 資料の活用 | 4 | 54.8 | 53.8 | 1.0 |
| 評価の観点 | 数学への関心・意欲・態度 | 0 | | | |
| | 数学的な見方や考え方 | 7 | 44.1 | 41.1 | 3.0 |
| | 数学的な技能 | 3 | 79.7 | 77.7 | 2.0 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 6 | 67.2 | 65.6 | 1.6 |
| 問題形式 | 選択式 | 2 | 54.4 | 52.4 | 2.0 |
| | 短答式 | 9 | 72.4 | 70.5 | 1.9 |
| | 記述式 | 5 | 38.1 | 35.0 | 3.1 |

各教科の成果と課題

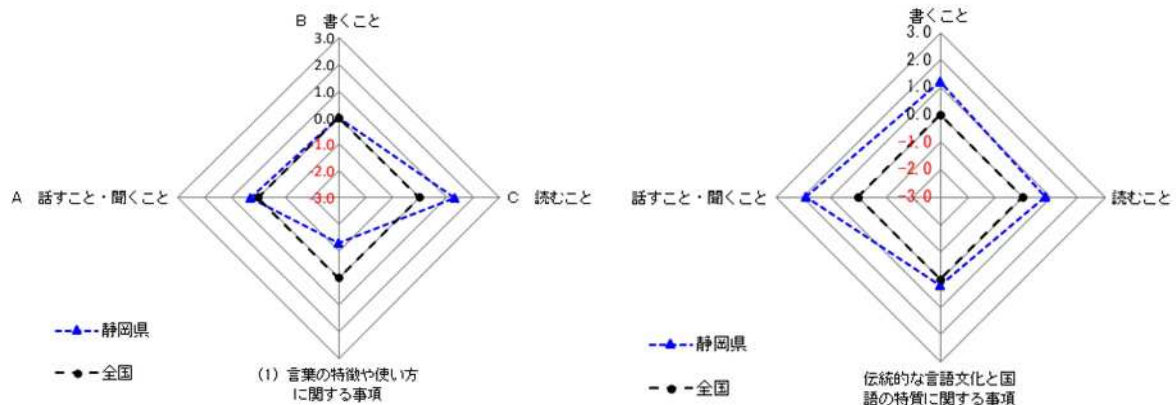
【国語】

- 小学校は、学習指導要領の内容「書くこと」「読むこと」において、全国の平均正答率以上である。また、記述式の問題はすべて全国の平均正答率を上回っている。
- 中学校では、すべての領域等で全国の平均正答率を上回っており、資質・能力がバランスよく育成されている。
- 小学校では、「知識及び技能」に課題がある。修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であると気付くことができるように指導することが大切である。また、「漢字を文の中で正しく使う」ことに依然として課題がある。
- 中学校では、「読むこと」において、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】

【中学校】



◆課題となる問題

| | 問題番号 | 正答率 (%) | | 問題の概要 | 出題の趣旨 |
|-----|-------------|---------|------|---|-------------------------------|
| | | 静岡県 | 全国 | | |
| 小学校 | 3三 (1) ウ | 51.4 | 54.4 | 部を、漢字を使って書き直す。 (つみ重ね) | 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う |
| | 3三 (1) エ | 76.2 | 79.0 | 部を、漢字を使って書き直す。 (げんいん) | |
| | 3三 (2) オ | 39.9 | 43.6 | 部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。 | |
| 中学校 | 3四 | 19.8 | 20.5 | 文章の一部を引用し、「我輩」が「黒」にどのような接し方をしているか、自分がそのような接し方をどう思うかを書く | 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ |
| | 4三 | 38.5 | 40.3 | メール本文中の「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する。 (尊敬語、謙譲語、丁寧語) | 相手や場に応じて敬語を適切に使う |

特に課題が見られた問題

【小学校国語】

3三(1)ウ

次の——部ウを漢字でていねいに書きましよう。
また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にうつみ重ねられています。

3三(1)エ

次の——部エを漢字でていねいに書きましよう。
かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、いげんいんののだと思います。

3三(2)オ

次のオの文について、~~~~部「すぐに」はどの言葉をくわしくしていますか。適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
オ その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。

- 1 遊び終わったら
- 2 遊具を
- 3 かたづける
- 4 むずかしい

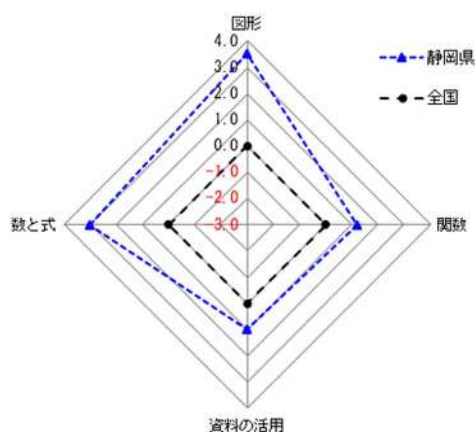
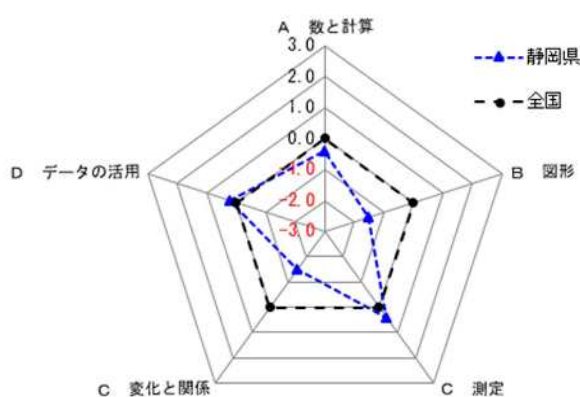
【算数・数学】

- 算数では、「C測定」「Dデータの活用」領域で全国の平均正答率を上回っている。
- 数学では、全ての領域で全国の平均正答率を上回っており、資質・能力がバランスよく育成されている。特に「数と式」「図形」の領域での平均正答率は、全国の平均正答率と比較して大きい。
- 小学校では「C変化と関係」領域において、速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。速さを比べる場合には、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさを用いて比べたりできるように指導することが大切である。
- 中学校では「資料の活用」領域において、2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性和意味の理解に課題がある。相対度数の必要性や意味を理解するために、大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが大切である。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況（全国との差）>

【小学校】

【中学校】



◆課題となる問題

| | 問題番号 | 正答率 (%) | | 問題の概要 | 出題の趣旨 |
|-----|-------|---------|------|---|--|
| | | 静岡県 | 全国 | | |
| 小学校 | 1 (3) | 53.4 | 55.8 | ◎と◎の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ | 速さを求める除法の式と商の意味を理解している |
| | 2 (1) | 50.1 | 55.1 | 直角三角形の面積を求める式と答えを書く | 三角形の面積の求め方について理解している |
| | 4 (3) | 48.1 | 51.5 | 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く | 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる |
| 中学校 | 7 (2) | 29.0 | 27.7 | 与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する | 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる |
| | 8 (3) | 12.7 | 11.1 | 「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張する理由を、グラフの特徴を基に説明する | データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる |

【小学校算数】

1 (3)

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

| 道のりと時間 | | |
|-----------|---------|--------|
| | 道のり (m) | 時間 (分) |
| ㊦ インターネット | 1600 | 20 |
| ㊧ たけるさんたち | 500 | 7 |

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

$$\begin{array}{l} \text{㊦ インターネット} \quad 1600 \div 20 = 80 \\ \text{㊧ たけるさんたち} \quad 500 \div 7 = 71.4 \dots \end{array}$$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 | 1分あたりに進む道のりは80 mと約71 mなので、㊦のほうが速い。
- 2 | 1分あたりに進む道のりは80 mと約71 mなので、㊧のほうが速い。
- 3 | 1 mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
- 4 | 1 mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。

2 (1)

図1のような直角三角形があります。

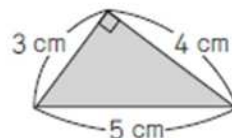


図1

- (1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。
求める式と答えを書きましょう。

児童生徒質問紙調査の結果

- 自分にはよいところがあると答える児童生徒が多い。
- 継続的に地域の行事に参加する児童生徒が多い。
- 自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒は増加している。
- 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える児童生徒が多い。
- 地域行事への参加率は高いが、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童生徒は、継続的に増加しているものの十分ではない。

◆本県の結果（肯定的な回答：％）と前年度、全国との差

※質問項目の[]内は、中学生への質問

| 質問項目 | 小学6年生 | | | 中学校3年生 | | |
|---|-------|------|------|--------|-------|-------|
| | 静岡県 | 前年比 | 全国比 | 静岡県 | 前年比 | 全国比 |
| 6 自分には、よいところがあると思いますか | 79.3 | -4.4 | +2.4 | 78.9 | +1.3 | +2.7 |
| 7 将来の夢や目標を持っていますか | 81.3 | -3.5 | +1.0 | 70.0 | -1.7 | +1.4 |
| 11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 97.0 | -0.2 | +0.2 | 96.0 | +0.9 | +0.1 |
| 17 家で自分で計画を立てて勉強していますか（学校の授業の予習や復習を含む）追加 | 74.6 | +2.2 | +0.6 | 62.0 | +15.2 | -1.5 |
| 24 今住んでいる地域の行事に参加していますか | 66.7 | -8.6 | +8.6 | 64.4 | -9.3 | +20.7 |
| 25 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか | 51.0 | -2.2 | -1.4 | 47.6 | +4.8 | +3.8 |
| 26 5年生[1、2年生]のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか（週1回以上の割合） | 35.7 | +5.3 | -4.4 | 35.7 | +6.2 | +2.3 |
| 27 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか（週1回以上の割合） | 38.1 | 新規 | -0.9 | 40.6 | 新規 | +5.8 |
| 28 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか | 95.1 | 新規 | +0.6 | 93.9 | 新規 | +0.7 |
| 43 国語の勉強は好きですか | 55.8 | -2.9 | -2.6 | 61.9 | +0.4 | +1.1 |
| 46 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 91.7 | +0.9 | -0.1 | 88.8 | +1.1 | +0.1 |
| 52 算数[数学]の勉強は好きですか | 70.4 | 0.0 | +2.6 | 60.8 | +1.3 | +1.7 |
| 55 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか | 92.9 | +0.3 | +0.3 | 73.5 | -2.2 | -1.1 |
| 61 英語の勉強は好きですか | 72.3 | 新規 | +4.0 | 60.8 | +1.0 | +4.1 |

学校質問紙調査の結果

- 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていると答えた割合が高く、授業改善の様子が伺える。
- 近隣等の学校と教育課程に関する取組を行ったり、合同の研修を行ったりしている学校の割合が高く、小中連携に意識的に取り組んでいる様子が伺える。
- 経年比較すると小学校では、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が向上してきているが、なお一層充実させたい。

◆本県の結果（肯定的な回答：％）と前年度、全国との差

※質問項目の[]内は、中学校への質問

| 質問項目 | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|------|-------|-------|------|-------|-------|
| | 静岡県 | 前年比 | 全国比 | 静岡県 | 前年比 | 全国比 |
| 8 前年度までに、児童[生徒]に対して、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか | 79.4 | +3.7 | -5.9 | 98.1 | -1.5 | +0.2 |
| 11 学校生活の中で、児童[生徒]一人一人のよい点や可能性を見付け、評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか | 99.0 | -0.4 | +0.3 | 99.6 | +0.4 | +1.0 |
| 18 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか | 93.0 | 0.0 | -1.4 | 88.7 | +3.2 | -1.9 |
| 19 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか | 98.6 | -0.6 | +5.0 | 97.3 | -1.6 | +4.6 |
| 20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか | 94.0 | -2.4 | -0.2 | 83.6 | -7.2 | -1.0 |
| 29 児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか | 84.7 | +3.4 | -0.6 | 86.3 | +4.2 | +0.3 |
| 43 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童[生徒]が意思決定できるような指導を行っていますか | 94.7 | +1.3 | +1.4 | 92.9 | +2.4 | +0.8 |
| 44 特別の教科 道徳において、児童[生徒]自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか | 98.2 | -0.2 | +1.2 | 99.6 | +4.5 | +1.7 |
| 66 第6学年の児童[第3学年の生徒]に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラスあたりどの程度行いましたか（週1回以上の割合） | 84.4 | +6.8 | -2.2 | 87.9 | +11.8 | +0.1 |
| 76 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに（調査対象である）第6学年の児童[第3学年の生徒]に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか | 93.7 | -3.1 | -0.7 | 90.6 | -2.1 | -2.7 |
| 77 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の持続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか | 67.7 | -5.5 | +8.6 | 77.8 | +1.8 | +12.8 |
| 78 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか | 70.1 | -12.5 | +12.7 | 76.1 | -8.3 | +11.0 |

全国学力・学習状況調査分析会 作成資料

8月23日（月）に行われた第1回学力向上連絡協議会において、各市町教育委員会学力向上等担当者及び県教育委員会事務局職員が共有した内容の抜粋

令和3年度 第1回学力向上連絡協議会

資質・能力の育成に向けた授業改善
～全国学力・学習状況調査の分析から～



静岡県教育委員会

はじめに

これまでの全国学力・学習状況調査結果の分析

↓

課題

「思考力、判断力、表現力等」を問う問題
記述式で答える問題

↓

本年度の調査問題等の分析を通して
具体的な授業改善の例を説明

2

国語科の分析の視点

第1章 総説

2 国語科の改訂の趣旨及び要点
(2) 学習内容の改善・充実

②情報の扱い方に関する指導の改善・充実
③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（8，9頁）
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（8，9頁） 3

国語科の分析の視点

②情報の扱い方に関する指導の改善・充実

急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（8頁）
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（8頁） 4

国語科の分析の視点

③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視


全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（9頁）
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（9頁） 5

国語科の授業改善に向けて

また、日常生活において児童が触れる文章には、図表やグラフ、写真や挿絵などを含むものも多い。文章と図表などを結び付けるなどして読むとは、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くかを明らかにすることによって、必要な情報を見付けることである。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（148頁）



「ヒント」は、本文に書かれているな。
「仕組み」はどこにあるのだろう。

「仕組み」は、この図に書かれていたんだ。

6

資質・能力の育成に向けて

目的を明確にした上で、子供が目的に応じて必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したりする場面を、単元構想の中に意図的に設定する。

7

国語科の授業改善に向けて

○考えの形成
 文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することを示している。「考えの形成」とは、**文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて**、自分の既有的知識や様々な体験とを結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。

| | |
|--------------|-------|
| 構造と 内容の把握 | 精査・解釈 |
| 理解 | |

根拠

| | |
|-----------|-------------|
| 感想を もつ | 考えを まとめる |
|-----------|-------------|

既有的知識や様々な体験

→

考えの形成

資質・能力の育成に向けて

感想や考えには一人一人違いがあることを認識

自分の考えを説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりする場面を、単元構想の中に意図的に設定する。

9

資質・能力の育成に向けて

複数の情報

| | | | |
|----|----|----|-----|
| 文章 | 図 | 表 | グラフ |
| | 写真 | 挿絵 | 動画 |

必要な情報は、目的に応じて変わるため、目的を明確にすることが重要

目的

↓

自分の考えをもつ

10

算数科・数学科の分析の視点

(1) 問題解決の過程や結果に着目した考察

ア **場面から数量の関係を捉えて**除法の式に表し、計算することができること。 算数
4

イ **数学的な結果を事象に即して解釈し**、事柄の特徴を数学的に説明できること。 数学
6

11

算数科・数学科の調査問題等の分析結果

算数 4 (2)

「 $8 \div 4$ 」と考えた子供のつまずきは、どこにあると思いますか？

問題場面の数量の関係に着目できていない

このような子供たちへの支援は？

(例) ・図やイラストで表す。
 ・問題場面に戻る。

12

算数科・数学科の授業改善に向けて

算数 4 (2)

問題場面を図で表したら、
どうなるのかな？

あ、そうか。
4Lを8人に分けるんだから……

13

算数科・数学科の授業改善に向けて

算数 4 (2)

「2L」と答えた子供に、どんな言葉を掛けますか？

1人分は2Lなんだね。じゃあ、
8人分では何Lになるのかな？

$2 \times 8 = 16$
だから、16L。あれ？

結果を吟味し、評価・改善する態度

14

資質・能力の育成に向けて

(1)の視点からの授業改善

○教師の見取りと働きかけ

- ・問題場面の数量の関係について問い返す。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈するように促す。

○単元構想において、結果を振り返る場面を設定する。

↓

過程や結果を吟味することで、自分の考えを評価・改善する態度を育成する。

15

算数科・数学科の分析の視点

(2) 「D データの活用」における指導に着目した考察

社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図った。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編」（6頁）
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編」（6頁）

算数 3 数学 8

16

統計的探究プロセス

統計的探究プロセス

「問題」から「結論」に向けて一方向に進んでいくのではなく、計画を立てながら問題を見直して修正を加えてみたり、グラフを作り直して分析したり、ときにはデータを集め直したり、相互に関連し、行き来しながら進むものである。

学習指導要領解説、統計データ活用センターHP等を参考に「統計的探究プロセス」をイメージ化

17

資質・能力の育成に向けて

(2)の視点からの授業改善

○統計的内容の授業づくり

- ・統計的探究プロセスを意識して、計画の修正やデータの再収集等を行うような学習過程を大切にする。
- ・分析した結果を多面的に考察することで、より深く分析する授業を行う。

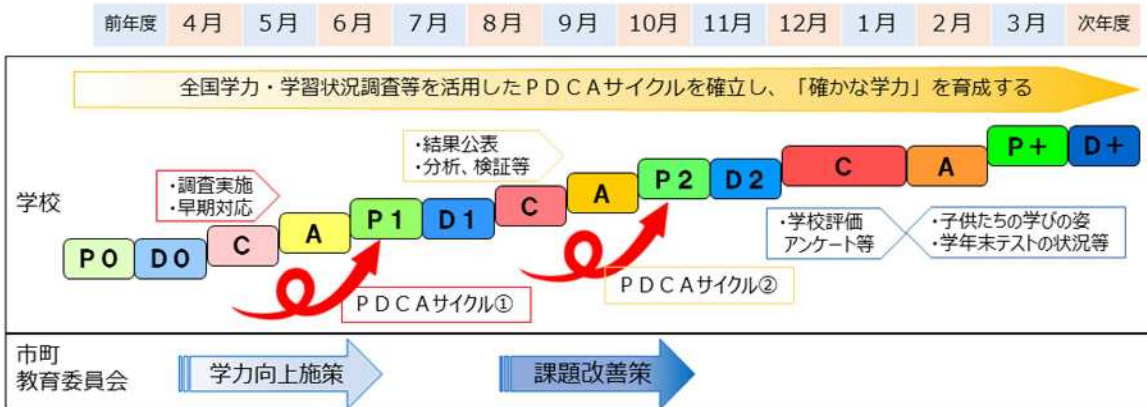
↓

必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりする能力を育成する。

18

全国学力・学習状況調査等を活用した「W-PDCA」改善サイクル

全国学力・学習状況調査等を活用した「W-PDCA」改善サイクル



PDCAサイクル①
【各学校の早期対応】
 各学校が実態に応じた方法で早期対応を実施することで、計画（P0）の方向性を修正し（C、A、P1）、実践（D1）する。

PDCAサイクル②
【市町教委・学校の結果分析】
 市町教育委員会や各学校が、公表された結果等を分析・検証することを通して、修正した計画を見直し（C、A、P2）、実践（D2）する。

教師用指導資料「自分ごと（自分の事）として学ぶ子供」

自分ごと（自分の事）として学ぶ子供

自分ごととして学ぶ子供（自分の事）

自分ごと（自分の事）としての学びは、子供が、「問いや考え」を他者との「協働・対話」を繰り返す中で再構成し、その過程で自ら学習意欲・能力を育んでいくような「子供が主体となる学習」を目指します。

時代の変化

人口減少社会
 少子高齢化社会
 Society 5.0 (社会5.0) (産業・社会)
 人工知能等の進化や環境変化の進展
 ・グローバル化
 ・人口問題、自然災害、経済的格差等

日本の子供の姿
 (参考: OECDの調査、内閣府調査)
 ○国際的に高い学力
 ○大人数に学びたいと考える子供の割合
 ○学力・人間関係力
 ●学力・日本人生活者としての志
 ●多様な価値観の尊重
 ●多様な価値観の尊重

世界における教育の動向

国際比較の視点から
 OECDのグローバル教育等、国連の持続可能な開発目標(SDG)の目標4「質の高い教育をみんなに」
 国際教育の動向
 市民教育や社会教育文化を推進し、人財を育成するための目標を達成

有徳の人

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等

生きる力

生きていく **知識・技能** 未知の状況に対処できる **思考力・判断力・表現力等**

学びの実感を積み重ねる

「問いや考え」の再構成

自分

「問いや考え」を持つ

協働・対話 **協働・対話**

学び手の視点で授業をつくる

有成果を目指す 学習・能力を明確にして授業を構想する 子供の思考過程を生かして授業を展開する 学習・能力の伸長について子供と共有する

教材研究 子供理解 カリキュラム・マネジメント

「問いや考え」の再構成

子供は、様々な情報や自他の考えを整理しながら、新たな知識・技能を獲得していきます。さらに、新たな問いが生まれ、次の学びへつなげるなどして、学びを深めていきます。

「問いや考え」を持つ

子供は、教材となる対象や事象との関わりの中で、自分の予想が結果と異なる場合や、他者の見方との違いを認識した時などに、問いや考えを持ちます。

学び手の視点で授業をつくる教師

「自分ごと（自分の事）としての学び」を実現していくためには、「目的的な学び」に基づきながら「学び手の視点で授業をつくる」ことが大切です。

有成果を目指す・学習・能力を明確にして授業を構想する

子供の思考過程を生かして授業を展開する

子供の言葉や姿から、考えや取組のよさなどを捉え、子供の思考過程を生かしながら授業を展開します。

子供が自ら学びを振り返り、学びの積み重ねや成長を実感できるよう、子供の学びを多面的・多角的に評価し、子供と共有します。

学習の過程や結果における学習・能力の伸長や学びの進め方、目的に基づいて多様な方法で学びを促すなど、子供の考えや思いを学習過程に生かす。

協働や対話の進め方と関わりを子供が実感できるよう、その目的や方法を子供と共有する。

学習・能力の伸長について子供と共有する

子供自身が学びを振り返り、学びの積み重ねや成長を実感できるよう、子供の学びを多面的・多角的に評価し、子供と共有します。

学習の過程や結果における学習・能力の伸長や学びの進め方、目的に基づいて多様な方法で学びを促すなど、子供の考えや思いを学習過程に生かす。

子供自身が振り返り、学びの積み重ねや成長を実感できるよう、子供の学びを多面的・多角的に評価し、子供と共有します。